

諏訪市男女共同参画市民協議会の活動報告

● 視察研修



7月4日、先進地視察の一環として、駒ヶ根市の「こまがね男女共同参画社会をめざす市民の会」と伊那市の伊那食品工業を視察しました。市民の会にはテーマソング「愛の共同参画」があり、会の最初に全員で歌いました。また、朗読劇「絆」を折に触れて披露していることや、男性の会員が多いこと、福島県二本松市で行われた「もちつきボランティア」の積極的な活動などにも、大きな刺激を受けました。伊那食品工業では、社員教育や研究開発、地域との共存などに力を注ぐ同社の方針を伺いました。

● 男の腕まくり料理講座

講座は昨年も、例年どおり9月に4回にわたりカルチャーホームすわで行われました。原村のこめっくクラブの女性の皆さんが講師で、米粉や地場産野菜の材料を使って料理をしました。メニューは米粉のロールサンド、米そばだんご、ペイクドチーズケーキなど美味しく健康に良いものばかりでした。メンバーは料理がはじめての人と常連との混成でしたが、チームワークよく楽しい雰囲気の中行われ、全部食べるのがもったいなく一部をお土産に持ち帰る人もいました。料理に関心を持つ男性がもっと多くなって欲しいと思います。



● ともに生きる諏訪市民大会



「前向きにまろく考える」と題して、いきいき元気館の交流ひろばで講演された。講演に先立ち、時そばならぬ「時うどん」の落語を明るく楽しく舞台上で披露し、講演会に訪れた200余名の笑いを誘い、まずは話の中に来客者の気持ちを引き込んだ。もちろん落語好きの私も惹き込まれた。落語の「時うどん」の後は舞台を降りて、会場目線で講演された。会場のあちらこちらを行って来た、話を聞き流せまいと一生懸命で、こちらも首をふりふりついていく。男女の違いはあるが自分らしさを大切にしよう。ある意味、近頃は「男はたくましく、また女はしとやかに」との考え方をしないのはどうか。私も少し疑問に思っていたので同感。タイトルの「前向きにまろく考える」を実践して少しずつでも前進していきたい。

編集後記

第4次男女共同参画計画が平成25年3月末で終わります。そこで、第5次の計画の策定が今年の春から始まり間もなく出来上がります。1次から4次までの20年間、バブルがはじけて経済が低迷し、雇用の悪化、自然災害、高齢化などで社会不安が広がっています。こういうときこそ男女がその個性と能力を発揮して、住みやすい社会作りが出来ればと思います。その為にこの第5次男女共同参画計画が達成されることを願います。



「親子でサッカーボールで遊ぼう」～諏訪市保育園保護者会連合会と初めて共催～



写真提供：長野日報社

若い世代への男女共同参画の啓発がなかなか進まない中、市民協議会に参加している役員さんから、今年の連合会のテーマが「親子で育てよう健やかな心とからだ」で、親子で体を動かす行動を計画していることを知りました。お父さんもお母さんも家族みんなでサッカーをしながら過ごすことで、「ワーク・ライフ・バランス」を考える機会となればと話をしたところ今回のイベントが行われることになりました。

当日は諏訪市サッカー協会の協力を得て、女の子も男の子も、お父さんもお母さんもみんな、時間を忘れるくらい一生懸命ボールを追いかけ楽しんでいました。とてもすがすがしい笑顔が印象的でした。

「この中から未来のなでしこジャパンが出るかも・・・」と協会の方々も目を細めて見守っていました。

今後も連合会と一緒にイベント等を開催し、男女共同参画について考える機会をもてたらと思います。

..... 参加された方の中から感想を抜粋して紹介します。

- ・知らないお友達とみんなでゲームをするということが、息子にとっても親である私にとってもとても新鮮な体験でした。親子で体を動かす機会をもっとつくらなければいけないなあと反省したところです。(男性)
- ・仕事優先の毎日ですが、今回参加することができ、とても大切な一日を過ごすことが出来ました。子どもの成長を感じた時間でもありました。(男性)
- ・普段は兄弟で遊ばせてしまうことが多くなりがちでしたが、親子で関わり合ったことで会話も増えました。(女性)
- ・とても楽しい時間でした。いつからか休日はなんとなく体を休めたいという親の都合で、あまり体を動かして遊ぶこともありませんでした。ゲームも初対面の人同士でも一緒にチームになってやると自然と心が打ち解けていく感じでとてもいいと思いました。主人も「こういうことが定期的であればいいのになあ」と言っていました。正直この発言には私自身がびっくりしましたが、主人もきっと楽しんで子どもと一緒に充実した時間が過ごせたからこそこの発言だったと思いました。子どももゲーム終了直後に「楽しかったねー！」とニコニコでした。(女性)
- ・普段下の子が小さいため父親と兄、母親と妹といったように家族全員ではなくそれぞれ遊んだりすることが多いため、今回家族全員で参加し子供がとても喜んでいて様子を見てもっとみんなで遊んだりふれあったりする時間をもたないと、と感じました。また、ついTVに頼ってしまったりする毎日ですが、休みの日くらいは外で体を動かして遊ぶことも大事だなと思いました。(女性)

《男女いきいき諏訪プランV》策定

わが国では平成11年「男女共同参画基本法」が施行され男女共同参画社会の実現は、21世紀のわが国の重要課題のひとつに位置付けられています。諏訪市では平成5年に「男女いきいき諏訪プラン」が策定され5年ごとに見直しを行って来ました。「男女いきいき諏訪プランIV」の計画期間が平成24年度で満了するため、その成果と課題を踏まえて、市民と行政が一体となりあらゆる分野において地域の特性を生かした男女共同参画社会づくりを総合的かつ効果的に推進するための新たな「男女いきいき諏訪プランV」を策定しました。各種団体より選出され計画の策定に携わった委員さんの中から一言いただきましたのでご紹介します。

◎矢崎泰子委員

(連合長野諏訪地域協議会事務局員)

今、諏訪地域における経済・雇用情勢は、低迷する世界経済や、円高、日中関係の悪化などのありを受け深刻な状況となっております。労働者を取り巻く環境も、改善の兆しすら見えてこない不安な状況に直面しています。サラリーマンのベースアップもなし、一時金の望みも薄いという八方塞がりと思わせる現状の中で、少しでも家計の足しにと就職を考える女性も多いはず。ここで問題となってくるのが、家事負担をはじめ、労働時間、休暇の取得、託児所問題等々、女性が社会進出する場合のリスクです。そのリスクは、当然、企業側の努力だけでは解決できるものではなく、家庭のバックアップ、職場の理解、行政のサポートが不可欠になってきます。女性が働くことで、家庭に歪が生じてしまっは本末転倒です。ワークライフバランスという言葉が世の中に浸透した今、「生き生きと女性が働ける社会」を目指して、労働運動に携わる者として提言していきたいと思っています。

◎阿部恵子委員

(諏訪市校長会男女共同参画推進委員)

小学校6年を終えるわが息子に「凜として」の一言を贈られた保護者がありました。ひと昔も前のことながらその時期になると1コマとして記憶に残ります。寄りかからず生きる女性を象徴する言葉のように受け止められがちな「凜」ですが、策定会議に参加させていただき、「男女がともに生き生きできる」社会を見据え、その実現に向けて、感性を磨きつつ声に出し合う歩みを止めてはいけな、そんな思いを強くしています。



◎伊藤 武委員

(青少年関係 諏訪市子ども育成会連合会会長)

「男女共同参画って誰のもの」

日本の歴史上、永く男尊女卑の思想が生きてきた。現代に至って、世界中が自由と平等の精神から、男尊女卑は罪悪であることの意識に変わり、女性も社会参画をすべきであることの意識改革の精神が広がり行政に、一般社会活動にと、女性の進出を促す活動が進んできておりますが、大人社会では目くじらを立ててまだ数パーセントしか達成されていない。もっと協力すべきと主張しているのは大人社会だけではないか。子供社会では、そんな大人社会で起こっていることはどこ吹く風。数年前からは女の子の方が積極的に先頭に立ち、男の子は言われるがままに行動するような世界に変わってきている。もう数年すれば、男女共同参画って誰のために行うのかな?と思わざるを得ない。男性のできること、女性のできることから手にしていくことが本当の男女共同ではないか。思いをはき違えないよう充分注意しながら進めることが大切である。

◎山田哲郎委員

(諏訪市人権擁護委員)

ホモサピエンスの我々、男女のDNDが違う深く思うと人には母体回帰の本能がある羊水の海の中に母の心臓の音や語る声を聴く安らかな日々を送ったことは忘れないという母なる大地、母心、故郷の母体回帰につながっている女性の絶大なもの、男女はそれぞれの生き方をカバーして良い方向に持っていくことが男女平等と思っています。元政治家野中氏、被差別部落出身の彼は党内での有形無形のすごい差別の中で女性問題に関して(男女共同参画社会基本法、含)改革をやった彼自身女性の立場をどう感じていたのかの問いに詰みつめれば母であったという。子どもたちに男女平等を学んでもらうことにより5年後20年後は優しい一日が始まるのではないでしょう。

《2012年 輝いた女》

第50回技能五輪全国大会 ウェブデザイン金賞受賞



セイコーエプソン株式会社 推進本部
情報化推進部
井口 瑛美子さん

◆第50回技能五輪全国大会 ウェブデザイン金賞受賞おめでとうございます。技能五輪出場のきっかけは?

◆ウェブデザインという分野に会社として初めて選手を選出するというので、職場で出場してみないかという打診を受け出場することにしました。プログラムなどは普通の業務では行わない為、上司や職場の方々と手探りの状態で事前課題に取り組みました。予選をトップでできたことにより周囲の期待も膨らみ、勉強しながら必死で本番に向かいました。結果が残せてよかったです。全国大会に出場した20名のうち企業人は私ひとりでした。ほとんどが専門学校で女性もいました。

◆ウェブデザインには興味があったのですか?

◆直接関係があるわけではないのですが、高校の時に携帯電話でホームページをつくってました。そういうことが好きでした。パソコンを使うことも好きでした。パンフレットやポスターづくりにも興味がありエプソン情報科学専門学校に進みました。入社時の面接でも「いつかは一般の人に興味を持ってもらえるページを作りたい」と伝えました。

◆出場しての感想は?

◆業務と並行して技能五輪の訓練をしましたが、新しい技術・知識が取得でき幅が広がりました。今後は得た知識をどのように業務にいかしていくかが課題です。来年は後輩が出場する予定なので、今回取得した知識を伝えていきたいと思っています。

◆この仕事を続けていきたいですか?

◆先はわかりませんが、やっていけたらやりたいですね。

◆結婚をして子育てをしながらでも是非働き続けてください。

長野県内赤十字病院初看護職副院長



諏訪赤十字病院 副院長兼看護部長
宮坂 佐和子さん

◆この職につかれたきっかけは?

◆幼いころ母が病気になるなりその時の職を知り、漠然と医療に携わる仕事がしたいと思いました。理系が好きでしたし、身近にあった諏訪赤十字看護専門学校に通い卒業後就職し、ずっと地元諏訪の地に勤務しています。現在は看護専門学校には男性も入ってきていますし、現場でも男性の係長も出てきて頼もしく感じています。

◆管理職になるための研修等ありましたか?

◆20代後半に東京の本社で1年間研修を受けました。現在も看護管理者のレベル別に研修があり、私は昨年度最終レベルの研修を終りました。

◆仕事と家事・育児・介護の両立はできるとお考えですか?

◆できると思います。家族の協力、特にパパの協力が一番でしょう。おじいちゃん・おばあちゃんの協力も心強いと思います。できれば三世帯一緒に暮らしながら育児も仕事もしていくことが大事だと感じています。また、院内には託児所もあり子育て支援もしています。夜勤があるので夜間保育も必要になってくるかもしれませんが、今は学童まで視野に入れていかなければいけないと思っています。

◆結婚・出産を機に辞めてしまった人への再雇用については何かありますか?

◆復帰支援の講習会をしています。国家資格を持った人が埋もれてしまうのではもったいないですから…女性も男性も皆が働き続けられるような職場環境を作りたいです。患者さんに満足していただけることを一番に考え、看護職として特性を活かして、経営にも参画していきたいと思っています。

※「初めての副院長という役職でご苦労もあるかと思いますが、リフレッシュの方法は?」とお聞きしたところ、「温泉にゆっくり浸かること」「美味しいものを食べること」「睡眠を十分とること」と笑顔でおっしゃっていました。この穏やかな笑顔が、接する人の心に温かさを与えてくれるんだなと思いました。

《女性がいきいきと働いている職場》

◎南信ヤクルト販売諏訪サービスセンター

○営業部長さんからお話を聞きました。

ヤクルトスタッフによるお届けは「婦人販売店システム」として1963年の導入から続けてきたヤクルト独自のお届け方法です。健康アドバイザーとしてお客様との対話を大切に、元気と笑顔を直接お客様にお届けしています。家庭にいる女性の働ける場として提供され、特に「働きたいけど子どもが見てもらえないから」という若い世代にとっては、託児所(1歳以上)は目玉です。現在ここには6人(子ども7人)の方がお子さんを預けて働いています。

雇用形態はひとりひとりと会社との委託契約となっています。活動実績・勤務状況により社員への昇格もあります。本人次第です。かつては早朝配達だけでしたが、働きやすい時間帯として日中のお届けに変わってきており、会社のシステムとして変化してきています。特に教育には力を入れています。ていねいな対応を心掛け、女性ならではの特性を生かしてお客様との信頼関係を大切に、きめ細かなサービスを提供できるよう、また地域に密着していけるように指導しています。

現在ここでは20代~60代の女性20名がいきいきと働いています。

○子どもをお迎えに来たお母さんたちに話を聞きました。

- ・働きたいと思っても保育園の未満児クラスに空きがなく、託児があるここを選びました。
- ・上にも保育園に行っている子がいて、ここでも預かってもらっている。助かっています。出来れば仕事は続けたいと思っています。
- ・子どもが具合が悪くなった時に、職場の託児所なので融通がきいてよいです。
- ・この職場には同じ位の年代のお母さんたちが働いているので、色々話を聞いたり相談できたりするので助かるし心強いです。

※託児所にお迎えに来たお

母さんに飛びついていった子どもの満面の笑みが最高でした。託児所内の名前の書かれた棚に、着替えがそれぞれきちんと並べられており、保育士さんとお母さんたちがしっかり連携がとれているなと思いました。

